



ippō (いっぽ)

秋田県立支援学校
天王みどり学園
研究だより第8号
令和7年2月14日発行

今年度は、教師が児童生徒の学びを見取り、見取ったそれぞれの解釈を共有し、「授業づくりのポイント」を基にしながら、チームで「主体的に学びに向かう姿」を育てる授業づくりに取り組んでいます。今回は、公開研究会の、高等部提示授業と協議について紹介します。

● ● ● 高等部木工班 作業学習 道の駅てんのうでの販売に向けて～秋田杉の箸とデザイン箸の製作～

授業について

12月12日に行う道の駅てんのうでの作業学習製品販売会に向け、箸60膳の製作を目標に取り組んだ。自分の担当する工程に責任をもち製品の仕上がり具合を自分で確認すること、報告をするときの目線や声の大きさなど基本的なコミュニケーション力を身に付けることを題材の大きな目標とした。

抽出生徒Cについて

今年度本校に入学した。本題材では箸のかんな掛けを担当している。題材前は自分に自信がなく、後ろ向きな発言が多かった。やったことのない活動は拒否する、消極的な姿が見られた。



本題材における目指す生徒Cの「主体的に学びに向かう姿」
箸の太さを自分で確認しながら作業を進める姿

授業研究会から（見取りと解釈から）

授業者が授業場面で気になった抽出生徒の言動を、協議の視点として設定。この視点に沿って青色の付箋紙に「子どもの言動」、ピンクの付箋紙に「解釈」を記入しました。黄色の付箋紙には、授業改善につながる意見やアイデアを記入しました。協議を行い、「次につながるキーワード」をまとめました。

協議の視点	授業改善案
<p>「報告場面でやりとりしていることが、振り返りでの発表につながらないのはなぜか」</p> <p>振り返り場面で 言えない、書けない</p> <p>自信がない？</p> <p>何について 言えればいい のかわからない？</p> <p>どう伝え たらいい のかわからない？</p> <p>目標と自己評価 を合わせて考える のが難しい？</p> <p>考えずに答 えている？</p> <p>「声が聞こえな かったです」と 答えた</p> <p>うまくいったと き、「まぐれで す」と発言</p> <p>声の小さい自覚が あるのでは？</p> <p>“先生に対し て” 声が聞こ えなかったと いう意味では？</p> <p>言語化が難し い？</p>	<p>報告のときの発 言を付箋紙に残 して可視化する</p> <p>振り返りでき るようテンプ レートを用意 する</p> <p>メモをとる 写真に撮る</p> <p>伝えないと 困るような ことを全体 に話す場面</p> <p>作業環境、T とのやりとり を通して自分 で改善</p> <p>同じ工程 の生徒と 一緒に振 り返る</p> <p>チェックポ イントを意 識した振り 返し</p> <p>思考を促す Tの発問</p>

※各グループのワークショップ用紙からの抜粋

「次につながるキーワード」

- ・ポイントを始めに確認→ポイントに対して振り返りのできるキーワード
- ・振り返りにつながる場面を視覚化（出来高表へのメモ、写真）
- ・チェックポイントを意識した振り返り、他者との関わり
- ・「まぐれ」をまぐれにしない」支援
- ・認める場面を増やす、即自評価の視覚化

「指導助言」 秋田県総合教育センター支援チーム 指導主事 進藤 拓歩 氏

○抽出生徒について

熱心に作業に取り組んでおり、生徒の育ちを感じる。授業の中であった生徒の発言、「まぐれです」「声が聞こえなかったです」に対して、協議の中で職員の深い考察が見られた。

音声言語でのやりとりが難しいからメモや写真というように、一足飛びに手立てにいつてしまうことがないようにしたい。「本人」にとって振り返りやすいツールはなんだろう・・・文字？写真や動画？音声記録？学習者の視点を意識し、本人と作戦会議をするのも一つではないか。生徒本人のキャリア形成に寄り添い、生徒が主語になるようにしていければよい。

○本時の授業について

報告を受けた際にやりとりをするのが教師の主な役割であった。基本的に、生徒に任せても大丈夫な環境づくりができていた。出来高表も、題材が始まったときから書き続けており積み重ねが分かった。また、生徒のかんな掛け治具は、同じ工程を担当する生徒とは高さや色が異なり、本人に合うように整えられていた。ペースが整っていたため、生徒に深く目を向けることができた。

題材計画の、製品製作 41 時間の中にはストーリーがあったのではないかと。細かい単元計画の記載があれば、主体的・対話的で深い学びのデザインが見えてくるのではないかと。作業学習製品製作と販売準備で、題材を分けてもよい。

○所感

キャリア形成の方向性として、卒業後どんな自分でありたいのか、それを知ることによって授業の方向性が変わってくる。今後、キャリアノートを使っていく中で、教師側が生徒の「なりた自分」を理解し、普段の授業の中で返していつてほしい。キャリアカウンセリング（生徒の気付きを促す、日常的な対話）が、研究の方向性につながるのではないかと。

どんな絵を描きたい？

そのためには、何が必要？



授業研究会後の授業から（授業へのフィードバックと生徒の変容）

振り返りにつながる報告場面の視覚化

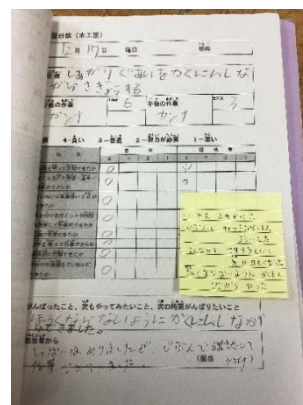
作業中生徒が話したことを、簡略化・キーワード化して、教師が付箋紙に書いて残した。報告時言葉が出てこないときに、以前書いた付箋紙を見返したり、「かんなの角度」「木材の固さ」等の選択肢を提示したりした。



【生徒の変容】

☆振り返り時に付箋紙があることで、自分で文章を考え、以前より短い時間で日誌記入できるようになった。

☆箸を削りすぎたとき、自分から報告に来てその理由を話すことが増えた。



対話を通して自己決定する場面の設定

付箋紙を使った支援方法が合っているか、本人の考えを聞く機会を設定した。「頭ではいろいろ浮かんでくるけど、言葉では出てこない。これ（付箋紙）があると、やりやすい。書きやすい。」と生徒本人が話したため、生活単元学習等でも、現在付箋紙を活用している。